

# 日本のサクラの多様性に魅せられたイギリス人

## 日本のサクラを生涯の研究テーマに

イギリスのサクラは、もともとセイヨウミサクラが自生するのみでしたが、19世紀末頃から日本のサクラ（ジャパニーズチェリー）が入手可能になり、江戸園芸に由来する日本の多様な品種が徐々に普及していきました。

現在のイギリスでは、各地で日本のサクラの多様な品種を見ることが出来ます。その普及と保存に貢献した人物がコリンウッド・イングラム（1880-1981）です。

イングラムと日本のサクラとの長いつきあいは、1919年にケント州ベネンデンの邸宅に転居したときからはじまります。邸宅内には、もとの家主が植えたと思われる日本のサクラがありました（下写真）。イングラムはその美しさに心を打たれ、日本のサクラを研究することを決心しました。それまで2度日本を訪れており、日本の自然の美しさに親しみを感じていたことも、サクラへの傾倒を後押ししました。

## 桜園をつくりコレクションを充実

イングラムは自宅に桜園をつくり、入手可能な品種のすべてを収集しました。アメリカのアーノルド樹木園を拠点としてサクラの研究を進めていたウィルソン（1876-1930）の協力も得つつコレクションを充実させ、1925年の段階で収集品種数は70に及びました。サクラの研究をさらに深めるため、イングラムは1926年に3度目の訪日を果たします。

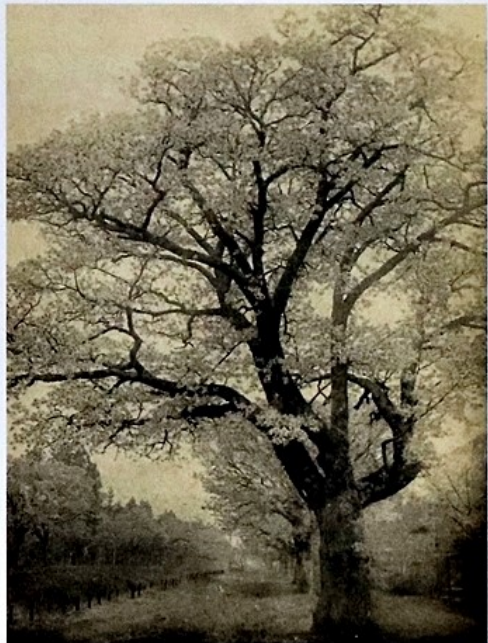


上写真：イングラムがサクラに傾倒するきっかけとなった邸宅内のサクラ（The Garden, May 26, 1923）（Biodiversity Heritage Library）

## サクラを求めて再来日

3度めに訪れた東京は関東大震災（1923年）からの復興の途上にあり、イングラムの記憶にあるかつての面影の多くは失われていました。イングラムは横浜の植木会社を訪れて多数の品種を注文しましたが、その際、華やかな品種にばかり注目が集まり、品種の多様性には関心が薄れつつある日本の事情を知り愕然とします。

イングラムは京都や奈良を訪れた後東京へ戻り、荒川堤の五色桜や小金井堤のヤマザクラを觀賞するなど、精力的に各地の桜名所を巡りました。興味深いサクラに出会った時は、接ぎ木用の穂木の送付を依頼することを忘れませんでした。



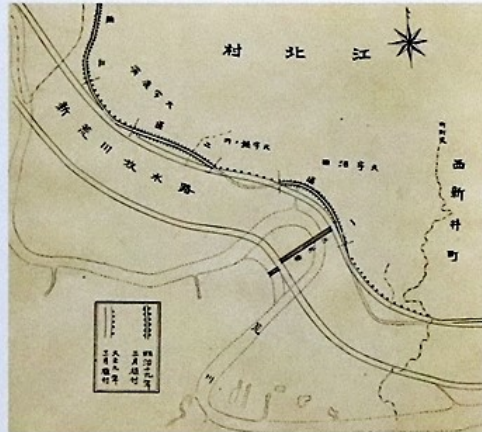
上写真：小金井堤のヤマザクラ（三好学著「桜花概説」1921年）（国立国会図書館蔵）



上図：「武蔵野小金井桜順道絵図」（国立国会図書館蔵）



上写真：荒川堤のサトザクラ（大提灯）（三好学著「桜花概説」1921年）（国立国会図書館蔵）



上図：名勝荒川堤櫻指定区域図（東京府史蹟名勝天然記念物調査報告書「荒川堤の櫻」1931年）（国立国会図書館蔵）

## 船津静作への共感

イングラムは、荒川堤を訪れた際、船津静作（1858-1929）との面会を果たしました。船津は江戸時代に多様化した品種の多くが失われつつあることを憂い、できるかぎり収集して荒川堤に植栽する活動を主導しており、イングラムは船津の取り組みへの共感を強く感じました。この面会の際に船津は、曾祖父が130年以上前に描いたという純白大輪一重の品種の図を見せ、今では絶滅したらしいと話しました。イングラムは図に描かれた品種が自身の桜園にあることに気づきました。

## 試行錯誤の末の日本への里帰り

船津から絶えたと聞かされた品種と同じものが自身の桜園にあると気づいたイングラムは、毎年冬にその穂木を日本に送りましたが、到着時にはことごとく枯死していました。来日時に各地で依頼した穂木は続々とイギリスに届き、問題なく接ぎ木ができたのに、なぜ日本に送る穂木は枯れてしまうのか。原因に気づくまで5年の歳月を要しました。日本からイギリスへの船便には太平洋航路が使われ、暑い地域を通過せず、穂木に問題は生じません。一方、イギリスから日本への船便にはインド洋航路が使われ、赤道通過の際に発芽し、日本到着時に寒さで枯れてしまっていたのです。5年目の冬はシベリヤ鉄道を使って発送したところ、無事に穂木が到着し、増殖が行われ、「太白」の名前で日本の各地に植栽されました。

## 多様なサクラを楽しむイギリス人

イングラムは自身が保有する品種の穂木を希望者に無償で提供しました。多くの種苗業者はイングラムの桜園から得た穂木を使って増殖・販売を行い、結果としてイングラムのコレクションの普及と保全に貢献しました。今ではイギリスの各地で日本のサクラが植栽され、3月下旬から5月中旬頃まで多種多様な品種による開花リレーが楽しめます。イングラムはサクラの育種にも取り組みました。自身が作出した「ウミネコ」、「オカメ」、「クルサル」などの品種は世界的に普及しており、日本でもみることが出来ます。



上写真：イングラムの桜園から日本へ里帰した「太白（たいはく）」



上写真：ロンドン・チジックにある「関山（かんざん）」の並木道（Wikimedia Public domain）

引用・参考文献：阿部菜穂子著「チェリー・イングラム 日本の桜を救ったイギリス人」岩波書店、2016年